

## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。  
ここに当社グループ第89期（2017年4月1日から2018年3月31日まで）の報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当期は、インダストリアル市場向けにつきましては、グローバルでの新規開拓、工業用途向けニッケル水素電池やリチウム電池、積層パワーインダクタの供給数量拡大に努めるとともに、新規開発電池の全固体リチウムイオン電池につきましては、早期のサンプル出荷に向けた実用化技術の開発を推し進めました。一方でコンシューマ市場向けでは、アルカリ乾電池およびニッケル水素電池をインターネット販売用途向けに供給数量拡大に努めました。また、当社グループがこれまで育んできた力と多様性をより大きな視点で一体化させるため、2018年3月1日付で従来の事業部制を機能別に再編することに加え、FDKグループ全体でお客ニーズの集約と商品企画を行なう部門を新設することで、“One FDK”で事業運営を行なう体制を構築いたしました。

当期の経営成績につきましては、売上高は、前期に比べ5億52百万円減の731億29百万円と減収となりましたが、営業利益は前期に比べ9億97百万円増の6億66百万円、経常利益は営業外費用として為替差損などを計上いたしました。78百万円（前期比7億75百万円の改善）とそれぞれ黒字転換いたしました。親会社株主に帰属する当期純損失はアルカリ電池事業および電子事業にかかわる固定資産の減損損失5億27百万円の計上により6億30百万円（前期比25億35百万円の改善）となりました。二期連続の減損により当期純損失となり、深くお詫び申し上げます。当期の業績の詳細につきましては、当報告書の2ページから6ページをご覧ください。

配当につきましては、未だ欠損状態でありまして、誠に遺憾ではございますが見送らせていただきたいと思います。株主の皆様には誠に申し訳なく、心よりお詫び申し上げます。

2018年度以降につきましても、当社グループの保有する技術を結集させ“電気エネルギーを効率的に利用する技術でグローバルに社会に貢献”する「スマートエナジーマネージャー」としてIoT、車載、5Gなどのモビリティの事業領域を中心にお客様へ“One FDK”でサービス・価値を提供してまいります。また、社会からの要請の変化と進化に応じた事業の選択と集中につきましても、スピード感をもって取り組み、収益力の改善に努めてまいります。

CSR活動につきましては、グローバルな社会的要請や規範に適切に対応するとともに、当社グループが保有する技術をもって、様々な社会課題の解決に貢献してまいります。また、ダイバーシティや働き方改革についてもさらに推し進めることにより、当社グループの持続的な発展と企業価値向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも引き続き当社グループをご支援賜りますようお願い申し上げます。

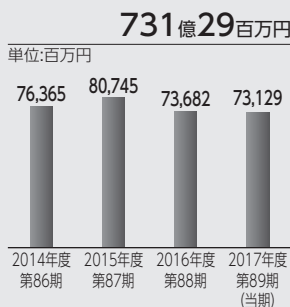


代表取締役社長  
大橋 洋一

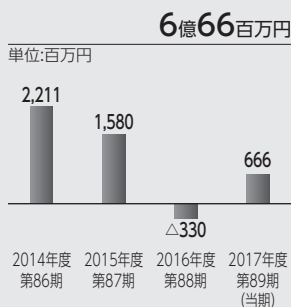
2018年6月

## 連結決算ハイライト

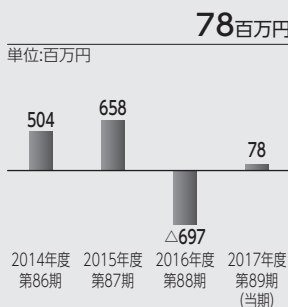
売上高



営業利益又は営業損失(△)



経常利益又は経常損失(△)



親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)

